

日 刊
JP
新東京

No.1197

2013年
9月2日(月)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

「心ひとつに運動」企画 相双支部エリア内作業ボランティア

新東京支部第10陣

作業ボランティアとして派遣!!

No.4

2011年3月11日14時46分、宮城県三陸沖マグニチュード9.0の大地震が起こって早2年半が経とうとしています。

岩手や宮城では、少しずつですが復興の気配がテレビや新聞等で見聞き出来るようになってきました。

被災地にボランティアに行くのは、今回が2回目になります。1度目は、震災が起きて半年後、宮城県七ヶ浜町に行かせてもらいました。旅行会社のボランティアアツ

アに申し込み、支部執行部と有志数名で漁港の町の民家の雑草除去・土を掘り返しての瓦礫の撤去をしました。周りの民家は家の基礎の部分しかなく、漁港から数キロ離れても海が見えてしまうほど何もなくなっている光景に言葉が詰まり、土を掘り返せばそこで生活をしていた住民の生活雑貨が出てきて涙をこらえながらの作業でした。

あれから、自分の心に何か被災地に対して出来る事は無いかと

いう思いをずっと持っている時、今回のボランティアの話を知り、自分でも助けになるのであれば是非参加したいと思いました。

初日は、南関東地本・山梨都留支部から参加の3名と合流し、南相馬市の海岸線を現況視察しました。海岸地面の石は未だ多くひっくり返ったまま、防波堤に上がる階段は崩れ落ちたまま、周りの民家は基礎を残したまま雑草が背高く生い茂って荒れ果てたまま、多少の復興は進んでいるだろうと簡単に思っていました。自分の目で見るまでは想像すら出来ないような光景が広がっており、今回のボランティアは相当厳しいものになるのではと覚悟を強いられた初日となりました。

二日目・作業初日は、福島で今年一番の猛暑を記録する中、まったく手を付けられないで雑草が

生い茂った家の庭を草刈り機で除去し、また、津波が床上1メートルまで浸かったこともあり、床を剥がし、泥を除去する作業を地元の相双支部の方々と今回の参加者で協力して行いました。

日が1番高くなる頃、1度作業を中断し、福島原発から10キロ圏内、請戸地区に視察に行きました。

漁港は半壊の状態で船着場は荒れ果て、瓦礫は当時のまま撤去される事もなく、漁港の作業場で2階の部分には津波で運ばれてきたであろう漁船が見るも無残に放置されていました。

まるで、あの震災から時が止まっていると思うってしまう程、何一つ復興はしていませんでした。

そこから車を走らせ、港に1番近い郵便局が存在していた場所へ行き、参加者一同手を合わせました。そこには社屋の基礎しかな

く、周りには津波で流されてきたであろう大きなテトラポットが数多く点在し、案内役の相双支部の方に、どこが窓口で、ATMはどこで、2名の同じ仲間が津波に逃げ遅れ亡くなり、1名は未だ行方不明とのお話を聞く度、胸が締め付けられ涙をこらえるのがやっとでした。

その後は、漁港近くの請戸小学校、放射能の関係で立ち入り禁止区域のバリケードまで行き、そこから見える福島原発の建物を見て、改めて福島をこんな地にした原発の必要性を考えさせられました。

視察から戻った後、引き続き作業に従事し、二日目の日程を無事に終えることが出来ました。夜は、地元・相双支部の方々が懇親会を開催してくれ、ボランティアに来てくれたお礼として「自分の現状を知ってもらえるだけで

も有難い。こうやって笑顔で交流出来るだけでこれからの復興に向けての励みになる」と言ってくれ、この福島の状態を少しでも持ち帰り、「震災が起ってから約2年半、福島の復興は進んでいないどころか、始まってもないんだ！」という事実を伝えていく責務を心に強く思いました。

最終日は、残りの作業を精力的にこなし、家主さんに大変喜んで戴き「こころひとつに」運動のボランティア活動を終える事が出来ました。

また、第6回定期全国大会で、東京地本と南関東地本が福島の相双支部への継続した支援活動を求めました。傍聴に、相双支部の佐藤支部長が来ていて、会議終了後、嬉しそうに報告の電話をしている姿が印象的でした。

日
刊

ア新東京

No.1200

2013年 9月 5日(木)

日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部

TEL 03-5606-6784 内線 4353

次世代郵便情報システム暫定運用の正常化について

《概 要》

1 予約・確定データ投入作業の郵便局への拡大

(1) 現状

予約・確定データ運用におけるデータ取込については、4月以降、本社で一括処理を実施してきたところであるが、6月からは一部の郵便局(40局)においてもデータ取込作業を実施し、夏季繁忙期においても問題なく作業を実施している。

(2) 対象郵便局の拡大

夏季繁忙期の実績及び発送管理システムの性能改善の状況を踏まえ、現在本社で一括処理を実施している顧客についても、順次郵便局へ拡大し、原則、10月末までに対象郵便局全局(約300局)に拡大する。

(3) 研修の実施

対象郵便局の拡大に向けた研修については、各支社において、研修実施局の選定及び研修計画の策定を行った上で、研修を実施する。

2 ゆうプリRの本格稼働

(1) 現状

発送管理システムの不具合によりリリース延期していたゆうプリRについては、7月から一部顧客(4顧客)において試行実施している。

(2) 本格稼働の実施(新規申込の受付、既存送り状発行ソフトからの移行)

発送管理システム等の性能改善及びプログラム改修の状況を踏まえ、10月1日から本格稼働を開始することとし、以下の対応を実施する。

ア 新規顧客へのゆうプリR本格稼働開始のご案内

勸奨用チラシ等を活用してゆうプリRの利用勧奨を実施する。

イ 既存送り状発行ソフトを利用している顧客に対するゆうプリRへの移行対応

既存送り状発行ソフト（ゆうパックプリント、e発行ビジネス、e発行プロフェッショナル）を利用している顧客に対して、各支社から送付する「移行対象顧客リスト」により、対応する顧客を特定し、移行対応を実施する。

※移行対応に伴い、発送管理システムへの会員登録のシステム負荷等を避けるため、e発行ビジネスの移行顧客会員登録については、平成26年1月10日以降とする。

※システムスキルが求められるe発行プロフェッショナルからの移行については、本社又は支社において対応し、当該移行顧客会員登録は平成26年2月3日以降とする。

(3) 移行スケジュール

平成25年10月～	ゆうパックプリントRの本格稼働開
平成25年10月～ 平成26年3月31日まで	ゆうパックプリントからの移行対応期間
平成26年1月10日～ 平成26年6月30日まで	e発行ビジネスからの移行対応期間
平成26年2月3日～ 平成26年6月30日まで	e発行プロフェッショナルからの移行対応期間

会社は、予約・確定データ投入作業の郵便局への拡大について、夏期繁忙期に一部の郵便局（40局）に拡大し、ピーク時約150万件/日のデータ投入を行ったが、システム的に安定稼働しており、郵便局での運用も問題は発生していない状況であったとして、8月25日に処理速度の向上や同時接続台数などの運用上の制約を解消する対策を行い、性能改善が図られたことを確認できたとしています。

また、ゆうプリRについては、サービス延期によりゆうパックの差出が遅延している顧客への影響及び社員の営業に対するモチベーション低下等の影響が生じている状況にあったことから、7月から4顧客を対象に試行を実施しています。また、8月25日に性能改善・テストを実施したうえで、不具合が発生していないことを確認できたとしています。

以上

日刊
ア新東京

No. 1201

2013年
9月6日(金)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

会員同士のふれあいと絆を
強くしながら平和な、健康で
安心して暮らせる社会をめざして



第三八回郵政退職者会東京中部定期総会

議長に横山敏夫さん (新東京)

郵政退職者会東京中部地区第三八
回定期総会は七月二七日(土)一三
時から神田郵便局会議室で開催され
ました。

昨年の総選挙で安倍政権の復活を
許し、今夏の参議院選で自公の安定
多数という政治情勢となりました。

総会は谷中幹事の司会で進められ、
最初にこの一年間の中でよくなられ
た会員の方々に黙とうを捧げた後、
畑中会長の挨拶、多数の来賓の方々
からのご挨拶を受けて、早速議事に
入りました。

私たち退職者高齢者にとつてます

郵政退協NEWS

郵政退職者会全国協議会

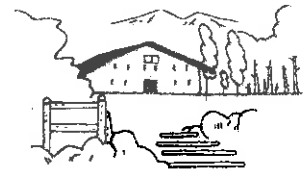
〒151-8501 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-20-5

電話 03-3497-5161

定価 1冊 15円

会費の購読料は会費の中に含む

ます厳しい世の中になることが目に見えています。会員同士のふれあいと絆を強くしながら平和な社会を求め、健康で安心して暮らせる世の中をめざして一層前進することを誓い合って成功裡に終了しました。



謹んでお詫やみ

申し上げます

新東京	山崎	正男さん	七八歳	一二・五・二六
同	細井	国次さん	七六歳	一三・四・一一
同	佐藤	直樹さん	八一歳	一三・一・二六
同	萩原	勝雄さん	九六歳	一二・九・二二
同	秋山	巖さん	六一歳	一三・七・八
同	長澤	漸さん	六八歳	一三・七・一五
同	藤代	昭一さん	八一歳	一三・一・一九

畑中会長挨拶(要旨)

参議院選の結果は皆さんご案内の通り残念な結果となりました。

安倍政権は憲法改悪が狙いであり、大企業に目を向けた政治となることは間違いありません。今夏の参院選は定光候補を立ててたばかりでしたが、当選させることができませんでした。全通よりも大きなJP労組が落としたということは大きな問題であり、大いに反省しなければなりません。JP労組が提起した新たな退職者組織に積極的に対応し、現役労組の皆さんと連携を強めながら組織の拡大・強化を図っていきましょう。新たな退職者組織となつてもこうして集まる機会は作っていききたいし、会報はこれまで通り発行していきましょう。お互い健康で頑張りましょう。

日 刊 新東京	No.1202	2013年9月9日(月)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

区分機宛区分の試行の実施について

9月に入り、夏の暑さも幾分弱まりつつある今日この頃ではありますが、組合員の皆さまにおかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。

さて、本年4月より様々な施策等がスタートする中、東京支社より、区分機宛区分の試行の実施について説明がありましたので周知します。

概要は、ネットワーク再編に伴い実施する区分機宛区分の運用上の問題点等を把握・検証するため33・34地域あて区分機宛区分による試行を実施するというものです。

1 目的

- (1) 区分機宛区分の実施に必要な差立作業スペース及び備品の確認
- (2) 差立作業の変更に伴う業務への影響の確認
- (3) 薄型パレットケースの回転方法の確認

2 具体的実施内容

- (1) 新型区分機の33・34地域あての区分口を区分機宛区分に変更し、区分口単位で差立てます。
- (2) 当該地域あては把束しないで薄型パレットケースまたはパレットケースに直接納入し差立てます。

3 試行対象局

新東京、銀座、神田、日本橋、晴海、赤坂、上野、王子、足立北、足立西、渋谷、目黒、新宿、豊島及び板橋北の計15局
 ※王子、足立北、足立西、板橋北局は部分的な試行となります。

4 実施時期

2013年9月24日以降準備でき次第

5 その他

試行対象局において薄型パレットケース置き台が不足する場
合、必要な数量を購入します。

6 地本対応状況

地本は、試行対象局の選定と実施内容について質しました。
対象局については特大局及び、差立郵便物数が多く見込まれる郵
便局であること。また、項番3※の4局については、郵便物量に
合わせて部分的な試行になるということ（33メイン又は34メ
イン）とし、各局において必要に応じて指定面の変更を行うとし
ています。

また、実施時期についても指定面変更もあるため、遅くとも10
月8日までには全ての局で実施できるようにしていくとしていま
す。

薄型パレットケースについても必要数については配備していく
考え方を示したところですが、

- ①現状薄型パレットケースの確保に大変苦勞していること
 - ②各郵便局間の回送がうまくいかないと試行そのものが滞ること
- この2点について問題提起し、支社も同様の問題意識を持った上
で、本社とも連携しながら、丁寧に状況把握し適正に対応したい
との考えを示しました。また、現状新東京局で不足しているケー
スマットの回送についても合わせて要請しました。

新東京局及び各局で作成された継越の薄物パレットケースにつ
いては、新東京で移載機処理されることから、作業負担は最小限
となるものの、実態の運行状況については注視するよう申し入れ
を行い、支社も実態把握に努め対応していくとの考えを示しまし
た。

また、薄型パレットケース置き台の不足や保管場所の確保など
についても対象郵便局の実態と要望を考慮し、的確な対応を求め
ました。

ネットワーク再編の暫定開始の一環という認識のもと、今後の
施行状況の把握と必要な改善については、実態検証の上今後も行
っていくとの考えが示された。

以上

日刊
JP新東京

No. 1 2 0 3

2013年
9月10日(火)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

東京地方大会の感想

八月二十八、二十九

二特分会 佐藤和代

日に、神奈川県「湯本富士屋ホテル」で開催されました、第六回定期地方大会に、今回、傍聴で参加した二名の感想をのせたいと思います。

今回、十数年ぶりに、定期地方大会の傍聴に行ってきました。前回行った時は、顔なじみの人がたくさんいたのですが、今回は、ほとんどが初めて見る人た

ちばかりで、年月の長さを感じてしまいました。大会での発言では、分からない仕事の内容がほとんどだったので、みんな、大変な苦勞をしていることが、よく分かりました。特に、日本郵便輸送の人たちの苦勞は、切実に伝わりました。今回の傍聴で、色々な会社の発言を聞いて、すごく勉強になりました。参加してよかったです。夜の懇

親会でも、色々な支部との交流を深められました。

また、こういう機会があれば、参加できる時は積極的に参加しようと思いました。

二特分会 鹿野慎一

今回、初めて地方大会に参加をうけてきました。傍聴、来賓あわせて約二百人集まっています。郵便事業以外は分からなかったのですが、他にも色々、不満が

あつて大変だと思いましたが。とても勉強になりました。夜の懇親会では、滅多に交流のない他支部との絆を深める事ができました。他支部の問題、仕事の内容など、普段聞けない話をたくさん聞けたので、ものすごくためになりました。また参加してみたいなと思います。

医療共済 マイガードに入ろう 加入随時募集中

割安な掛金の医療共済です。補償額が入院1日、3千円、5千円、1万円から選べます。医療に関する保険に加入していない人はまず入っていた方がよい共済です。入院、手術や骨折、1日入院なども対象となります。病気が発見されてからでは加入できませんので、検査を受ける前に加入しておきましょう。深夜勤での疲労の蓄積は思わぬ病気を引き起こします。ぜひとも検討を…。
詳しくは組合役員まで…

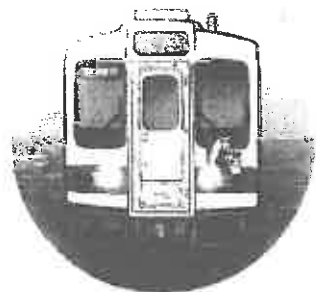
東日本大震災から2年半

夏休み！津波被害のあった東北沿岸を公共の交通機関を利用して歩いた。

仙台駅から気仙沼線で柳津駅へ行きBRTに乗った。宮城県から岩手県にかけてJR線の復旧は進んでいない。昨年12月から柳津—気仙沼間（55km）を代替バス「BRT」による仮復旧で運行している。このBRTはふつうの代替えバスと違い、道路以外に線路軌道上を舗装したバス専用道走る。信号はなく、飛び出しもなく、渋滞もないのでスイスイ進んでいく。

しばらく走るとが削り取られ、家も基礎だけ残した津波被害の現場が現れた。こんな山の中まで海が津波が迫ってきたんだ、とぼう然とした。

この専用道は気仙沼線と同じルートなので海岸線をずっといく。車窓には津波の被害を見ながら進むことになる。なにもなくなった町を通りすぎて「しずがわ駅」に着いた。「南三陸さんさん商店街」仮設の飲食店や土産物屋がある。海鮮丼を食べ観光協会へいってみる。観光協会の職員の方は「ここにいるだれもが津波被災者なんです。復興はまだ先ですが、みなさんで是非南三陸にきて現状を見てください」と訴えていた。最近津波の犠牲を教訓に、社会勉強として職場単位や学校ごとに「観光」にきているそうだ。地元の人にはそれが励みになるといっていた。



再びBRTに乗り広大な面積が津波被害となり市役所も仮設のままの陸前高田で降りる。高台の仮設住宅から町を眺めていた人は「やることがない、土を積んだトラックばかり走っているがまだ変わらない」と落胆していた。

気仙沼では、カツオの水揚げで有名な気仙沼漁港は再開しているが周辺は壊滅的である。ようやくガレキを取り除いた状態である。「ガレキとよばれるのがつらい、直前まで生活していたものなので瓦礫じゃないんだ」と仮設の復興屋台村で刺身を切っていたお兄さんが嘆いていた。この人も津波で車ごと流されたが助かった。しかし、旅館を失ったという。陸に上がった大型漁船を見て津波のすさまじさをあらためて感じた。大船渡—釜石—宮古と海岸線をバスや三陸鉄道で北上していく。

田老駅に降りると私一人以外なにもない。すべて流されてしまった。しばらく立っているとおじいさんが歩いてきた。「200人亡くなった。津波といえば田老、田老といえば津波というくらいに有名で、万里の長城といわれた堤防があった」「堤防の上から津波を見ていた人は全員流されてしまった。堤防も壊れ自然にはかなわない」と明治昭和の津波から説明してくれた。海の方では、この田老堤防をかさ上げする工事が始まっていた。

途中で吉浜という町も歩いた。奇跡の町「吉浜」といわれているところで海岸線にある町にもかかわらず流失家屋2～3件、死者1名と被害が少ない。明治の大津波を教訓に津波がきたところより下には「家を建ててはいけない」という先人の教えを守ってきたためだ。

北に行くにつれて町は津波に飲み込まれ橋は落ち、津波の破壊力は増し復旧のスピードは鈍くなっているのがわかる。2泊3日の旅行だったが、瓦礫の撤去がようやく終わったところもあれば、そのあとに新築の家が完成しているところもある。復興は一步ずつ一步ずつ進んでいるのを実感した。

8月、新東京支部から相馬市や双葉町にまたがる相双支部へ3名がボランティアとして参加した。請戸区は時間制限があるものの原発まで10キロの距離まで近づくことができるようになった。ここは2年以上も時間が止まったままの町である。食堂横に掲示してある写真を見てほしい。

福島原発は高濃度汚染水漏れ事故で300トン以上が排水路から海へ流れ出てしまった。東電体質は以前と変わらないのではないか。タンク付近で測定された1800ミリシーベルト（1.8シーベルト）とは、4時間近くその場所にいたら死んでしまうほど危険な数値である。

原発の再稼働と海外輸出をねらっている安倍政権はオリンピック東京招致のため「放射能は東京に影響ない」と発言した。全国の避難者等の数は約29万人。東京オリンピック招致に熱を上げたように、進まない復興に憤っている被災者や住んでいたところへ帰れない原発避難者の気持ちに寄り添い痛みを共有することにも熱心になってもらいたいものである。

東日本大震災から2年半、テレビや新聞でもこの日ばかりは特集で取り上げるのだろう。しかし、自分の目で見て肌で感じることの大切さを痛感させられた。JP労組は「心ひとつに」をキーワードに緊急支援物資送付、震災カンパや南相馬の缶バッチの取り組み、ボランティアや機関誌報告、有志での被災地ツアーなど十分とはいえないが新東京支部でもできることを取り組んできた。

これからも「私たちは忘れない」ということを肝に銘じて、今後の組合活動に生かしていきたい。



岩手県北バス東京⇄久慈

岩手きずな号

「あまちゃん」のロケ地久慈！

八重洲口22時45分発

「平成25年度年末年始業務運行推進の基本方針・要綱」 に対する要求書示される。

～今後地方意見踏まえ25日の大綱整理目指す～

郵便事業は、必須目標であった2012(平成24)年度単年度黒字を達成することができたものの、行き過ぎた効率化や非正規社員化の積み重ねにより、極めて厳しい要員事情にあり、業務基盤は不安定な状況にある。

また、郵便再生の具体的なメニューである郵便ネットワークの再編や新たな集配体制の構築なども、その取り組みは精についたばかりであり、万全な態勢とはなっていない。

一方、ゆうパック事業単体での黒字化を早期に実現するとともに、年賀離れに歯止めをかけ、収益性の維持・向上をはかっていくためには、業務運行やサービス提供に混乱を来たすようなことがあってはならない。

JP労組は、そうした極めて難しい環境のなかで、年末年始業務運行を確実に推進するために、下記のとおり要求するので、速やかに誠意ある回答を示されたい。

総論(基本方針)

1. 労働力の安定確保および受託者の確保が容易ではなく、通常期より超過勤務が続く職場が多い状況にある。また、車両保守事務も滞っており、車両運営も困難な状況にある。そうしたなかで、どのように更なるオペレーションコストの低減をはかっていくのか。本社の現状認識と具体的な方策について示すこと。
2. 郵便局段階における労使間の意思疎通にあたっては、「労使関係の基本に関する協約」等に基づき、丁寧かつ誠意ある対応を行うこと。
3. 年末年始期に向けて、郵便局段階での準備期間を十分に確保するとともに、職場の問題・課題を正確かつ迅速に把握し、必要な郵便局支援を行うこと。特に、地域区分局の業務運行の状況と、郵便局のグループ管理体制を見直して最初の年末年始期であることから旧集配センターの状況については、十分注視をすること。

共通関係

4. 安全確保を最優先した業務指導を行うとともに、安全衛生推進策を強化し、労働災害の根絶に向けた取り組みを徹底すること。また、交通事故防止用反射ベストについては、全社員分を配備すること。
5. 社員の健康管理に十分配慮し、適正な勤務時間管理のもと、慎重かつ丁寧に超過勤務の発令を行うとともに、連続出勤の抑制をはかること。また、安易に特別条項を適用することのないよう郵便局指導を徹底するとともに、法令・協定違反については厳しく対処すること。
6. 正社員、期間雇用社員および受託者に対し、丁寧な事前研修および訓練を行うこと。

要員関係

7. 安定した業務運行と品質の確保を優先し、「コストの低減」が行き過ぎることのないよう郵便局指導を徹底すること。

8. 元日における正社員等の全員7時出勤については、その目的に沿って、郵便局の状況に応じた判断を行うことができるようにすること。
9. 正社員、短時間社員および外務期間雇用社員については、1月1日から1月3日(遅くとも5日)までの間に最低1日の休暇取得を可能とするよう指導が行われているものの、休暇取得が徹底されない職場実態にあることから、その検証と要因分析を行ったうえで、あらためて郵便局指導を徹底すること。
10. 短期期間雇用社員の内務へのシフトについては、郵便局の状況に応じて、柔軟に判断を行うことができるようにすること。
11. 郵便ネットワークの再編に伴う新拠点については、公共交通機関による通勤が困難な立地条件にあること等から、労働力確保がより困難となっている現状をふまえ、労働力確保に向けた具体的な対策を講じること。

施設関係

12. 施設の狭隘対策に万全を期すこと。また、部外施設借入等については、郵便局段階で柔軟に判断を行うことができるようにすること。

運送便関係

13. 過積載防止に向けて、積載制限の厳守について発着担当への指導を徹底すること。また、法令違反を発生させないために、ドライバーの判断を優先させること。
14. 年末年始運送便ダイヤを早期に策定するとともに、臨時便については、日本郵便輸送との連携のもと、適切な設定を行うこと。

車両・備品関係

15. 修理待機車両が多い現状をふまえ、修理費用の申請基準を含めた車両保守の事務フローを見直したうえで、年末年始期までに必要数を配備すること。
16. 書留かばんおよびキャリーボックスの配備状況を検証し、年末年始期までに必要数を配備すること。
17. ロールパレット、チルドコンテナおよび保冷容器等について、必要数を把握したうえで、不足する場合には増備を行うとともに、適切な回送を行うこと。
18. 集配業務支援システム(DOSS)の運用を行っていくなかで、携帯端末機が不足することのないよう対応をはかること。

ゆうパック関係

19. 品質確保を優先し、安易な委託単価の引き下げは行わないこと。
20. 歳暮期におけるゆうパック3日間配達については、郵便局の状況に応じて、柔軟に判断を行うことができるようにすること。
21. 110ccバイクへの更改とあわせ、キャリーボックスの大型化が進められているなかで、安全を最優先することは当然にして、ゆうパックの併配については、推進目標ありきの運用とならないよう郵便局指導を徹底すること。

年賀郵便物関係

22. 1月2日の年賀配達については、コストの低減に取り組むとする基本方針との整合性と、1月1日から1月3日(遅くとも5日)までの間に最低1日の休暇取得の実現性の観点から休配とすること。
23. 年賀の選出し傾向への対策として、実効性の高い早期差し出し勧奨施策を展開すること。
24. 今期年末年始期における「日配戻し」を中止すること。

その他

25. J P C Cにおける初期対応のまずさから2次クレームに発展しているケースが散見されることから、J P C Cにおける初期対応について改善をはかること。

日 刊	JP新東京	No.1207	2013年9月17日(火)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部	
		TEL 03-5606-6784 内線 4353	

～平成 25 年度用年賀差立 集中処理計画の概要について～

日本郵便東京支社より、平成25年度用年賀差立集中処理計画の概要について説明がありましたので周知します。

本件は、平成25年度年末年始業務推進計画(13項目)の1項目であり、各郵便局における年賀郵便処理計画の準備期間を確保するために事前説明を行ってきたものです。

概要は、年賀差立集中処理を行う事により、年賀郵便を一通でも多く元旦配達するため、昨年度から年賀差立集中処理計画の一部を変更し、年賀期における正常な業務運行を確保するというものです。

1 今期の処理体制

処理局数は80局で区分機194台を使用し年賀差立処理を行います。区分機内訳として、新型区分機167台、年賀用区分機27台であり、稼働機数は昨年同様とします。

2 今期の計画概要

- (1) 到着年賀処理物数が多い局は、可能な限り年賀差立を他局に移管します。
- (2) 統括局、年賀用区分機及び新型区分機複数台配備局(一部の局を除く)を集中局とします。
- (3) 全期間を移管する局については、昨年同様1月6日(月)及び7日(火)の移管先を統括局とします。

ア 新東京局へ移管する局

小石川、足立北、足立西、葛飾、葛飾新宿、本所、向島、赤坂、世田谷、大崎、荏原、蒲田、田園調布、千歳、中野北、赤羽、板橋、板橋西、大泉局の19局

イ 東京多摩局へ移管する局

多摩、国分寺、国立、昭島、八王子、八王子西、町田、町田西、鶴川局の9局

- (4) 年賀差立を実施する一部の局で到着年賀処理ピーク時対策のため、期間を限定して年賀の差立移管を実施します。

JP労組新東京支部ホームページ <http://jpgu137.cafe.coocan.jp/>

(5) 機械落ち年賀(自局で低速再処理後に落ちた年賀)を他メーカーの区分機でクロス供給することにより、手区分が大幅に削減できることから、他局に移管して区分機再供給を実施します。

ア 新東京局に移管する局

上野、落合、牛込、練馬、晴海、荒川、品川、豊島、板橋北局の9局

イ 東京多摩局に移管する局

調布及び小平局の2局

ウ 相互間で移管する局

神田局と日本橋局で相互間移管を実施します。

(6) 年賀差立物数の多い23区内局の差立集中局から、東京多摩局あてに直行便を新設します。直行便新設局は、神田、日本橋、本郷、渋谷、代々木、新宿、新宿北局の7局を対象に、12月29日(日)及び30日(月)の二日間のみ運行します。

※多摩地域所在局の元旦結束数を確保するため。

(7) その他

今期は、12月19日(木)～23日(月)の年賀移管を復活させ、スムーズな年賀移管となるよう運送便設定を行います。

地本は、今期年賀差立集中処理について、区分機1台配備局の救済及び区分機の高速度による移管受入局での処理体制の確立など、一定の成果が上がってきていると認識しているところであり、昨年度から実施している年賀クロス供給(機械落ちを他局で再供給)による機械処理率の向上で、手区分年賀の削減による経費節減にも繋がっていると判断しています。

しかし、短期ゆうメイトの雇用確保が年々厳しくなっている中、統括局での業務運行確保対策や、一般局における深夜帯の年賀責任者配置がままならず、昨年は数局で年末に年賀処理に支障をきたすなど課題が生じていることから、年末繁忙時の要員配置、特に年賀最繁忙期となる12月28日以降の深夜帯の正社員配置(年賀担当等)については、稼働計画と併せた計画となるよう支社に対し強く申し入れたところです。

支社は、全局の稼働計画を確認するとともに、年賀差立及び年賀2パス処理が稼働計画に沿った業務運行となるよう指導を図るとの見解を示したことから、本件を了としましたが、各職場においては職場労使委員会の窓口で年賀差立集中処理計画の説明がありますので、労使の意思疎通をお願いします。

日 刊 JP 新東京	No.1208	2013年 9月18日(水)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

ゆうパック部合同分会会議 開催

去る9月14日、組合事務室にて1・2パック分会と3パック分会の合同による分会会議が開催された。分会長を議長に、分会三役・執行委員・これからの時代を担う若手幹事ら、計11名の参加で各議題を議論しあった。

- ・執行委員会報告（全国大会・地方大会）
- ・人事給与制度
- ・夏期の反省をふまえての年末要求
- ・組織拡大行動
- ・運送ダイヤ
- ・次世代システム（現状）
- ・発着PC入力
- ・要員問題
- ・他

話の中心は職場の問題点が多く、議題がなかなか前に進まないという状況もあった。2時間という限られた時間の中では内容の充実した会議ができたと思う。

この会議で話し合い、まとめた事を部の方でも交渉し、支部大会の意見としてあげていくつもりである。

最後に来期より変わる分会新体制を確認し、組織拡大にも力を入れていくとの意識統一をして会議を締めくくった。

旧2パックと旧3パックが統合し、かなりの大所帯の分会となり3年が経過した。組織が大きいと人間関係が希薄になりがちである。少しずつではあるが、分会活動を中心に新3パック分会が一枚岩になっていければと思う。

日本郵政グループ労働組合新東京支部 第6回定期支部大会公示

日本郵政グループ労働組合同規約第76条に基づき、日本郵政グループ労働組合新東京支部第6回定期支部大会を下記のとおり召集する。

記

1. 名称 「日本郵政グループ労働組合新東京支部第6回定期支部大会」
2. 日時 2013年10月6日(日) 10時00分～17時00分
3. 場所 アパホテル 潮見
4. 議案 (1)第1号議案 2013・2014年度活動方針(案)
(2)第2号議案 2013年度予算(案)
(3)第3号議案運営細則類改正(案)

以上、公示する。

2013年9月6日
日本郵政グループ労働組合
新東京支部
支部長 下山 薫

日 刊

新東京

No. 1209

2013年
9月19日(木)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

野球サークル『新東京』

東京地本大会、惜敗……

9月7日(土)、柴又野球場において「第6回東京地本

野球大会」が開催され、我が『新東京』が中央連協を代表して参加しました。(もう1チームは、日本橋)

当日は曇り空でしたが、だんだんと日差しが出てきて野

球日和となりました。

『新東京』の対戦相手は、多摩府中支部の『JPF武蔵府中』チームでした。

幸運な組み合わせにより、1回勝てば準決勝進出。「目指せ！大田スタジアム！」を合

い言葉に試合開始。

1回表、『新東京』の攻撃。先頭打者、渡部(三バツク)が死球で出塁。自慢の足を活かして3塁まで進み、相手捕手の後逸により先制！

その後はお互いに点を取り合い、2対2で向かえた3回裏。相手チームの猛攻に、2対4と勝ち越しをゆるしてしまいました。

しかし、『新東京』も4回表、相手のミスに助けられ4対4の同点！

5回からは、1死満塁からのサドンデス。

(裏へ)

『新東京』は、2番打者の本間(二特)からの好打順に期待しましたが、あえなく凡退…。

その裏は、渡部のセンターからの好返球があり無失点に抑えました。

サドンデスの2回。『新東京』は、相手のミスにつけこみ、1点勝ち越し5対4！しかし、その裏。左中間才一バーのヒットを打たれ、5対6でサヨナラ負けを喫しました…。



下山支部長をはじめ、多くの方に応援に来ていただきま

したが、残念な結果となり申し訳ありませんでした。並びに、大変感謝致します。

『新東京』は結成して2年目で、まだまだ力不足を感じました。来年こそは東京地本野球大会で勝てるように練習に励んでいきます。

また、新入部員も募集していただきますので、野球に興味がある方や体を動かしたい方は、是非とも参加してください！

次回の練習は、9月25日(水)の10時から夢の島野球場で行います。

キャプテン 石井

医療共済 マイガードに入ろう 加入随時募集中

割安な掛金の医療共済です。補償額が入院1日、3千円、5千円、1万円から選べます。医療に関する保険に加入していない人はまず入っていた方がよい共済です。入院、手術や骨折、1日入院なども対象となります。病気が発見されてからでは加入できませんので、検査を受ける前に加入しておきましょう。深夜勤での疲労の蓄積は思わぬ病気を引き起こします。ぜひとも検討を…。詳しくは組合役員まで…

日 刊	ア新東京	No. 1210	2013年9月20日(金)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部	
		TEL 03-5606-6784 内線 4353	

[投稿] 今も続く被災地支援

ベルマークを東日本大震災で被災した 学校のために寄贈しました、の前に…

みなさんこんにちは(こんばんは)。最近ガーデニングに精を出してばかりの【猫舌】です。他の活動? いや、ベルマークの回収にだけ力を入れているといっても過言ではないかも…(汗)。

今回は、正月疲れで日刊紙に投稿しなかった昨年末分と、今回送付した5月末日分の報告です。が。

その前に幾人の方々から、

「どうしてベルマークを集めるのが
被災地支援になるの？」



との質問を受けました。『詳しくはベルマーク財団のWEBで! 囿囿』と突き放すのもいいのですが、この際なので代わりに説明します。

ベルマーク運動は、本来ベルマーク財団に活動を登録している学校や公民館、生涯学習団体との団体取引で行っているもので、個人では学校などを通さないと参加できない仕組みになっています。

ですが、今回の東日本大震災の被害が甚大なため、財団が個人からの「震災援助寄贈ベルマーク」を当面の期限なしで受け入れてくれることになりました。集めて寄贈したベルマークの点数は、財団で東日本大震災で被災した学校の点数として、配分します。

大概、「復興」と一口でいっても、インフラの整備や建物建築などが主で、学校生活に必要な備品まで行き届かないのが災害支援のお約束となっている傾向があるので、被災地の学校支援のための寄付がしたい！ と始めたところ、筆者の周りの幾人かが賛同し、また支部にベルマーク回収箱を置かせてもらえたので、現在も細々と続けています。

本来なら、毎月集まった分を、そのままベルマーク財団に送ってしまえば OK なのですが、財団で「震災寄贈マーク」を、ベルマーク番号（参加企業）別に集計しているのがボランティアの方々なので、「その手を煩わせてはいけないな～、前にベルマーク委員を子供の小学校でやったけど、仕事の延長（脱落切手の仕分けに似ている）で大したことなかったし」と思い、自分で番号別に集計・送付しています。毎月は無理なので、年3回、4ヶ月ごとに回収・集計して送っています。



ということで、本題に…と思ったら紙面が尽きた！
申し訳ない！ 報告は次回に持越しです。お楽しみに。

東京地本→東京支社

新たな人事・給与制度に関する要求書提出！

～早期回答求め精力的に交渉中

今後も具体的問題点集約、必要な交渉を展開～

「新たな人事・給与制度」に関する要求書

日本郵政グループ労働組合東京地方本部は、第6回定期全国大会における「新たな人事・給与制度」の妥結承認に伴い、今後、社員周知や一部試行が開始されることから、万全の態勢で制度の導入を迎えるため、以下の通り要求書を提出するので、速やかに回答を示されたい。

「導入に向けた対応」

- 1 新たな制度の導入においては、会社の責任で丁寧な社員周知を実施し、制度の理解浸透を図ることが重要である。今後の具体的周知方法やスケジュールを示すこと。

特に、渉外社員については、役割成果給の一部を手当て原資にするなど、大きく変わることから具体的数字を示すなど、より丁寧に実施すること。

「人事評価制度」

- 2 評価制度は、人事・給与制度の根幹であり、公平・公正な評価で納得性が担保されなければならない。現行制度における以下の問題点に対する改善策として、東京支社の対応を明らかにすること。
 - (1) 人材育成の観点から、年度スタート時における目標の設定時、中間時、フィードバック時の対話が重要であるが、多くの職場で形式的なシートの配布・回収となっている。今後は、誰がいつまでに実施するのかなど具体的に示し、完全実施すること。
 - (2) フィードバックが形骸化し、評価者に対する信頼が不足している現状にあると認識している。改めてフィードバックの定義と評価者・被評価者の信頼関係を構築するための指導要点を示すこと。
 - (3) 評価者のスキルアップに向けて、どのような訓練・研修を実施していくのか示すこと。また、最終評価者である管理者は、特に緊張感をもった全体の監督が必要だが、支社としてどのような指導をしていくのか示すこと。

- (4) 本来、第一次評価者は直接被評価者の仕事ぶりを観察し評価する立場にあるが、巡回社員や特異な勤務指定などにおいても、一次評価に納得性が得られるようなスキームの改善が必要と考えるが、支社の見解を示すこと。

「業績手当」

- 3 業績手当の本格導入に向けては、試行を踏まえた上で必要な対応を行うとしているが、実効性のある試行とするために以下の課題に対し、支社の考えを示すこと。
- (1) 業績手当試行導入に伴い、班長によるマネジメントが重要となるが、労働力不足により班長専任時間が確保出来ていない現状がある。改善策を示すこと。
- (2) 業績手当の公平性を担保するためには、配達区を見直すなど一定の平準化を推進すべきと考えるが、支社の考えを示すこと。
- (3) 班長特別ポイントの付与方法については、「公平性・納得性」の観点から、導入後も支社段階での継続した研修が必要と考えるが、支社の考えを示すこと。
- (4) 年賀販売等の予約者と販売実績者(DOSS入力者)が相違するケースが生じた場合、手当対象は販売実績者となることから、予約者に対する公平性とモチベーションが損なわれるが支社の見解を示すこと。
- (5) 業績手当で個人配分の基準となる「1分当たりの基準配達物数」の算出については、各局において早期に作り上げる必要があると考えるが、試行導入以降のスケジュールを明確に示すこと。
- (6) 曜日別基準物数を基としたポイント管理の加減算について、被応援時や超勤対応時等に対する考え方について、具体的シミュレーションを出すこと。

「営業インストラクターの処遇の見直し」

- 4 10月から、処遇の見直しに関する試行を実施するとしているが、育成指導の結果を反映する制度であることから、短期間で評価・分析するには細かい基準などが必要と考えるが、詳細を明らかにすること。
- 5 営業指導手当の算出方法として、営業実績を点数化することになるが、前年比については、年度ごとに募集環境が大きく変化する事が想定される。総体的に前年比が下回るような状況になった場合は、算出ラインの変更など調整を柔軟に行うべきと考えるが、現段階での見解を示すこと。

「必要労働力の確保」

- 6 新たな人事・給与制度の導入にあたっては、労働力不足の解消は欠かせないものと認識している。特に郵便外務については、募集をしても応募が予定数を下回る状況であることから、早急な対応を行う必要があるが、支社の見解と具体的対応策を示すこと。

日 刊	JP新東京	No.1212	2013年9月25日(水)
		日本郵政グループ労働組合新東京支部広報部	
		TEL 03-5606-6784 内線 4353	

がん保険の取扱局拡大について

9月20日、日本郵便郵便局総本部営業部より、がん保険の取扱局拡大について説明がありました。7月26日(金)の日本郵政とアフラックとの基本合意を踏まえ、がん保険を販売する郵便局を拡大するというものです。

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 対象局 | 比較的規模の大きい渉外局500局 |
| 2 拡大時期平成 | 25年10月1日(火) |
| 3 営業目標の設定について | 対象局に対して(5億7300万円) |

本部としては、今回の取扱局の拡大については、突然の会社どうしの合意に基づく対応であることから、ある程度理解するものの、拡大局の社員にしてみれば「寝耳に水」であるとして、本社に対し、①年度当初に予定していなかった年度途中の取り組みであることから、1年間を評価期間とする人事評価の対象外とすること、②その他の金融新規商品に係る取扱局の拡大が重複しないよう配慮すること、③目標設定されているが、本業である「かんぽ」に影響しない営業指導とすること、の3点について申し入れを行いました。

申し入れの本社回答として

- ① 今般の取扱局拡大に伴う営業目標については、年度当初に予定していない営業目標であったことをふまえ、一般社員の人事評価の対象外とする。
- ② 今般の「がん保険」の取扱局拡大に当たり、他の金融新規商品に係る取扱局拡大との重複については、個別事情に鑑み、取扱いに支障が生じるということであれば、除外することとしている。
- ③ 「がん保険」については、ドアノックツール等として使用するなど、「かんぽ生命」との相乗効果を期待しているもの。「がん保険」の販売に当たり営業目標を設定することとなるが、「かんぽ生命」商品への影響がでないよう、特定の商品に偏重することなく、目標達成に向けて取り組んでいるところです。なお、今般の「がん保険」の取扱局拡大における営業推進に当たっては、無理な指導等が行われないう、留意していく。

震災復興とオリンピック、そして福島

「3月11日、津波が、私の故郷を襲いました。6日もの間、私は自分の家族がまだ無事であるかどうかわかりませんでした。」「私たちが目にしたのは、かつて日本では見られなかったオリンピックの価値が及ぼす力です。」骨肉腫のため20歳で右足を切断し、その後走り幅跳びで2回のパラリンピックに出場した佐藤選手。この感動的なスピーチは、オリンピック招致を成功に結び付けた要とも言われている。

震災を乗り越えたからこそ実感したスポーツの力。日本はそれに救われたことのアピール。そして、一国の総理が自信をもって断言した「福島は完全にコントロールできている」。オリンピック開催決定は嬉しいことだが、何だろう、私はとても違和感を覚える。

一つは、震災復興はまだ道半ばだということだ。決定に喜ぶ政治家、莫大な経済効果、湾岸エリアの建設ラッシュなどという言葉を、仮設に住む被災地の人々はどう受け止めるのだろうか。東京に建築工事が集中する分、復興が遅れることは確実だ。私なら、「震災を売り物にした」、「私たちは棄民だ」と受け止める。もう一つは、福島の汚染水問題だ。コントロールできているどころか、悪化の一途をたどっている。

毎日300tの汚染水が海に流れ出し、毎日400tずつ汚染水をタンクにため込んでいるという状況は皆が知るところだ。この汚染水、1リットル当たり8000万ベクレルという超高濃度な汚染水だ。300tに含まれる放射性物質は、ヒロシマ型原爆1発分に相当する。このとんでもない事態を、まったく收拾できない状況にある。そして原発の敷地にため込んでいる汚染水の総量は43万トンにもなる。原爆に換算すると1400発分である。福島の敷地は、むき出しの放射能の沼になっている。タンクは耐久性がなく寿命は5年というが、先月、タンクの数か所から300t以上が漏れ出した。すでに耐久性は失われている。つまりこれだけの物質がむきだし状態で存在している。

個人的な意見だが、被災地の復興、福島原発の処理が済んでから（破綻しないという仮定で）オリンピック招致に乗り出すべきではなかっただろうか。安倍政権は原発再稼働をできるだけ早く実現すると明言した。汚染水問題も復興の遅れもオリンピックが免罪符となってしまった。日本人として恥ずかしい人たちがオリンピックをやりたいの一心で、なりふり構わずになっているとしか見えない。

(投稿)

仕分コードの変更について

ゆうパックで使用している、仕分コードを来年の2月(予定)に変更することになりました。今までは、郵便番号と全く違う仕分コードを使用して、区分していましたが、変更後は、仕分コードの上2桁が、基本的に郵便番号の上2桁が同じになります。詳細は、以下の通りになります。

1 概要

「郵便NW再編に伴う深夜勤廃止局の早朝帯の作業低減」及び「ゆうパックの黒字化に向けた配達局における配達区分の向上」のため、現在使用されていない仕分コード5・6桁目を活用する変更を行います。

併せて、地域間誤送リスク低減のため、仕分コード上2桁を郵便番号の上2桁と整合する変更を行います。

(例)北海道岩見沢市朝日町 〒068-3185

<現状仕分けコード>

桁	1桁目	2桁目	3桁目	4桁目	5桁目	6桁目
	1	0	7	0	9	9
定義	統括局番号		配達局番号		新旧識別コード「99」	

<変更仕分けコード>

桁	1桁目	2桁目	3桁目	4桁目	5桁目	6桁目
	0	6	7	0	1	7
定義	<u>郵便番号 上2桁</u>		<u>配達局番号 原則変更なし(注)</u>		<u>メッシュ(町域)番号</u> ※郵便番号単位 (「99」は使用不可)	

2 変更時期

平成26年2月頃

3 仕分コードの変更スケジュール

時期	主な内容
H25.7	支社において3~6桁策定 (5・6桁については、一部郵便局で策定)
H25.8	支社作成データのチェック・調整
H25.9	マスターデータ作成・登録
H25.10	決定データの周知
H25.10	顧客説明(~H25.11)、顧客へのマスターデータ提供
H26.2	仕分コードの変更

※番号付定後の修正は、現行のマスター更新同様、月1回予定

変更時期については、年間を通じてゆうパックの配達物数が少なく、仕分けコード変更の影響が少ないとの判断から、平成26年2月頃を予定しており、その間の変更スケジュールは、表面の通りです。

本部は会社に対し、仕分コード導入当時から郵便番号と整合性を果たすべきとの提起を行ってきた経過にあることから、この間の経緯について質しました。

会社は、宅配統合時において、一部ターミナルを承継したことから、受持ちエリアの分割により、郵便と同様の区分ができなくなり、郵便番号との整合ができなかったとしています。

なお、宅配統合見直し後、ターミナル支店の廃止もあり、郵便と同様の区分が可能となったことから、5・6桁の活用変更に伴せ、上2桁を郵便番号と整合する変更を行うものとしています。

また、郵便番号(7桁化)と整合しない理由としては、会社は、基本設計(6桁)を変更することによりお客様又は会社内のシステム改修が必要になること。特にお客様へは、宅配統合時に改修依頼を行っていることから改修依頼は、現実的ではないとしています。

加えて、郵便番号(5桁化)としない理由と、メッシュ番号区分について質しました。

会社は、今回の変更の目的は、5・6桁目の活用による効率的な配達区分を行うため、基本は、郵便番号の上2桁の整合を行うものとしています。ただし、メッシュ区分の活用を考慮の上、郵便番号5桁整合に近づけることについては、支社に一任しているとしています。

なお、メッシュ番号区分とは、ゆうパックの配達区分については、局別に区分方法は、異なるものの、基本的には集配の班レベル集合で通配区レベルの細かい区分ではないとしています。

また、5・6桁目の付定の考え方については、基本的な考え方を支社に示し、支社と郵便局で付定し、本社で調整の上、決定するとしています。

ベルマークを集めています。

ベルマークを寄付していただける方は、組合事務室(2階)へお持ちください。

今後の日程(予定)

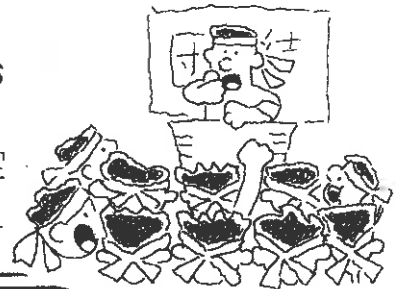
10/6 第6回定期支部大会(APAホテル東京潮見駅前)

組織運動の「再構築」をめざす 定期支部大会へ向けて 「真の組合員の幸せ」の追求へ

2008年9月に旧JPU(全通)と全郵政が統合して丸5年。10月6日の日曜日に第6回新東京支部定期支部大会が潮見APAホテルで開催されます。大会議案書も配布されていると思いますが、是非一読いただき職場の声を分会等でまとめて持ち寄っていただきたい。

支部大会を開催するにあたって今後2年間の「新東京支部活動方針」を提起する考え方にについて明らかにしていきたいと思えます。今大会の議案の考え方は、旧両組織が「真の組合員の幸せの追求」を旗印に「融和・融合」「対等・互譲」の精神で統合しこの

5年間活動を進めてきました。しかし、職場では統合のメリツトを感じるものが少なくなっています。組合員からの指摘があるとおり「折にふれた支部オルグの実施」もままならず、組合員への情報提供や認識の統一など時機を逸したりして限られたものとなつていのが現状です。長野で開催された第6回全国大会において議論された「組合員の求心力の希薄さ」が各種動員など支部活動においても散見されます。この状況の克服が今後の支部活動の柱となつていくと思えます。深夜勤と深夜勤の間での超勤



が過重な負担になっている問題等：組合活動の大きな部分を占めている日々の職場で発生する問題や課題に対し、組合のチェック機能を強め改善すべきは改善を求め、言うべきことは言うていく。それが「高次な労使関係論」であり労使パートナーとして当然のことと思う。各分会でも新分会体制となるでしょう。ただちにチェック機能の対応ができ組合員の気持ちに答えられるよう分会機能の確立強化を要請していききたいです。

J P 労組運動を引き継ぐ次の世代の育成も急務です。活動の柱となっていく若い世代が、職場改善の取り組みにとどまらず、平和や政治・社会のあり方など生き生きと自信に満ちて活動を

進めていける支部運動をあらゆる場を通して求め、実践していく必要があると思います。

交渉力を促進する大きな力は組織の力です。未加入社員・ゆうメイトさんへ加入促進をしていきます。組合に加入して職場の問題や労働力政策など、ともに考え改善の要求や問題解決に取り組んでいきましょう。

「福祉型労働運動」、原発問題に見られる「国の基本政策」、「あらたな郵政づくり」、「組織の拡大維持強化」「5年総括」など課題は広くたくさんありますが、10月6日に開催する支部大会では、各分会の英知を結集し、横の討論を通じ確認し確立していく新東京支部の良き風土を大切にしていきたいと思えます。

今定期大会は、組合の人事大会でもあり支部役員も交代することとなります。新執行部を暖かく支え育てていくのも組合員みなさんの責務であります。そのことが支部を強化することになります。

今まで以上に、組合員、各分会のご協力を要請し、支部大会の成功を勝ち取りたいと思っております。

真の組合員の幸せ実現という大きな目標に向かい新東京支部一丸で取り組むために組合員一人一人が考え参加する大会にしていききたいと考えています。

支部大会への多くの意見反映をお願いします。

日本郵政グループ労働組合
新東京支部 支部長 下山 薫